

第 4 次水道事業総合計画  
第 2 回見直し案  
及び  
第 1 2 次中期財政計画案について

補足資料  
(指標解説)

八戸圏域水道企業団



## KPI

指標名	算出方法	解 説
有効率	$(\text{年間有効水量} \div \text{年間給水量}) \times 100$ [%]	水道施設を通して給水された水量が、どの程度有効に使用されているかを示すもので、経営の効率性を表す指標の一つです。
有収率	$(\text{年間有収水量} \div \text{年間給水量}) \times 100$ [%]	年間給水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して給水された水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標です。
管路の更新率	$(\text{当該年度に更新した管路延長} \div \text{管路延長}) \times 100$ [%]	管路総延長に対する当該年度に更新した管路延長の割合を示すもので、管路の更新ペースが把握できません。数値が 2% の場合、すべての管路を更新するのに 50 年かかることになります。
浄水施設の耐震化率	$(\text{耐震対策の施された浄水施設能力} \div \text{全浄水施設能力}) \times 100$ [%]	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す指標の一つです。
ポンプ所の耐震化率	$(\text{耐震対策の施されたポンプ所能力} \div \text{耐震化対象ポンプ所能力}) \times 100$ [%]	耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す指標の一つです。
配水池の耐震化率	$(\text{耐震対策の施された配水池有効容量} \div \text{配水池等有効容量}) \times 100$ [%]	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す指標の一つです。
管路の耐震管率	$(\text{耐震管延長} \div \text{管路延長}) \times 100$ [%]	導・送・配水管(配水支管を含む)全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表す指標の一つです。

## KPI

指標名	算出方法	解説
基幹管路の耐震管率	<p>(基幹管路のうち耐震管延長÷基幹管路延長)×100 [%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業団では、導・送・配水本管(φ350mm以上)の延長を基幹管路としています。</li> <li>・耐震管とは、耐震継手化された管のことです。</li> </ul>	<p>基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すものであり、地震災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標の一つです。</p>
重要給水施設配水管路の耐震管率	<p>(重要給水施設配水管路のうち耐震管延長÷重要給水施設配水管路延長)×100 [%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要給水施設とは、災害時に重要な拠点となる病院、避難所などをいいます。</li> </ul>	<p>重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表す指標の一つです。</p>

経営指標

指標名	算出方法	解説
職員一人当たり有収水量	年間総有収水量÷損益勘定職員数 [m <sup>3</sup> /人]	水道サービスの生産性・効率性を評価する指標で、有収水量の規模に照らして、人員数が適切であることを示しています。
企業債償還元金対減価償却費比率	建設改良のための企業債償還元金÷(減価償却費-長期前受金戻入) ×100 [%]	投下資本の回収と再投資との間のバランスを見る指標です。 一般的にこの比率が100%を超えると、再投資を行うための資金を企業債等の外部資金に頼らざるを得なくなります。
有形固定資産減価償却率	(有形固定資産減価償却累計額÷償却対象資産の帳簿原価)×100 [%]	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化割合を示しています。
有収水量1m <sup>3</sup> 当たり資産合計	資産合計÷年間総有収水量 [円/m <sup>3</sup> ]	どの程度効率よく施設を使用して給水を行っているかを表す指標です。 資産の規模は団体により異なりますが、遊休資産や未稼働資産が多い場合は、数値が低くなる傾向にあります。
施設利用率	一日平均給水量÷一日給水能力×100 [%]	一日給水能力に対する一日平均給水量の割合を示すもので、施設の利用状況(効率性)や適正規模を判断する指標です。 一般的には高い数値であることが望ましいです。

経営指標

指標名	算出方法	解 説
経常収支比率	$\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$ [%]	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかという、収益性を示します。 この指標は、単年度の収支が黒字であることを示す 100%以上となっていることが必要です。
料金回収率	$\text{供給単価} \div \text{給水原価} \times 100$ [%]	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかという、料金水準を評価する指標です。この指標が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味します。
流動比率	$\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$ [%]	短期的な債務に対する支払能力を表す指標で、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す 100%以上であることが必要です。
自己資本構成比率	$(\text{自己資本} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}) \div (\text{負債} + \text{資本合計}) \times 100$ [%]	資金の調達源泉である総資本(負債・資本合計)に対する、自己資本(自己資本金+剰余金)の割合で、財務の長期的な安全性を示す指標です。